ほんにかえるプロジェクト会報　2016 年 1 月創刊

かえるのうた

第 26 号　2022・12 月

ほんにかえるプロジェクト発行
編集責任者：汪　楠

内部会員作品　No. A311　K.A.

振り返り　ふりかえり見る
過ぎし日は
光と影の　万華鏡

田中伸彦　遺稿

振り返ると　そこに一人の男がいる。
駅前の人波の傍らで　片手にビッグイシューを持ち　赤い帽子をかぶり　静かに立っている。
10 年以上も昔。男は精神科病棟の一室で　野獣のような眼をし　あたりを見回していた。
退院後も　不安定な心を抱えたまま自分自身と闘う日々が続く。
今　男は温和な眼をして　降り続く六月の雨を見ている。

振り返ると　そこに一人の男がいる。
福島原発の汚染された土塊(つちくれ)を　感情を押し殺した眼で眺めながらクレーン車の操縦席に座る。
まだ若く　しなやかな身体と　熱い思いが漲っていた頃　男はドバイのインフラ工事の現場で　アラブの風に吹かれながら　ブルドーザーを操っていた。
今　男は少し虚ろな眼をして　静かに降る六月の雨を聴いている。

振り返ると　そこに一人の男がいる。
夕暮れの雑踏の中　黒いコートを風に包み　冷たい鋭い眼をしてタバコを咥える　吹き抜ける 12 月の木枯らしに煙が舞う。
もう　思い出せないくらい昔　街々の闇の中を　男は過酷なしがらみを背負って　野良犬のように　あてもなく歩いた。
今　男は六月の雨を見ることも　六月の雨を聴くこともない。
安らかに　合掌。

振り返ると　そこに一人の男がいる。
戦前に生まれ　どこでどう道に迷ったのか　気が付くと　夜の歓楽街で　虚飾の光にまみれ　華やかな日々を過ごしていた。
時は流れ　男は故郷の武蔵野に帰り来て　中古雑誌露店商の元締めとなりバブル景気のさ中　平成の世を謳歌する。
今　男は高齢者施設の窓辺に座り　六月の雨を　どんな想いで眺めているのか。

振り返ると　そこに一人の男がいる。
少年時代に美術の世界で　生きる道を志し　新聞配達をしながら　高名な劇画家のもとで　アシスタント暮らし。
それでも時は情け容赦なく流れ行き男は井の頭公園の六角堂で　夜露をしのぐ日々。
時には持ち前の美的感覚で　精緻なクラフトを創り　またある時は玉川上水沿いで　朝早くから銀杏を拾う。綺麗に洗いあげた銀杏は　多少の現金収入をもたらす事も。
今　男は江戸川沿いに部屋を借り　仕事も手に入れ　悠々自適に暮らしている。
雨の六月　遠い武蔵野に想いを馳せているだろうか。

振り返ると　いくつもの人影が　武蔵野の林に　現れては　また消える。

田中伸彦代表を偲んで

PJ 事務局長　汪楠

私が田中伸彦代表と知り合ったのは2014 年頃でした。14 年ぶりに岐阜刑務所を出た私は新たなスタートとして養母と共にボランティア活動に参加するようになりました。はじめは大した問題意識も信念もなく、ただ漠然とボランティア活動に参加すれば自分の心が洗われるじゃないかくらいの気持ちでした。それで想像のままにホームレス支援の炊き出しに参加し、ついでに障がい者支援や、いわゆる政治活動にも参加していました。自分自身が外国人というのもあって、もちろん外国人労働者や学生の支援活動にも参加、特に中国残留孤児問題にも関心を持ち、NPO 法人中国帰国者の会の事務局にも入り、語学を生かして色々な講演会の同時通訳や戦争当時の電報を含む公文章の翻訳にもかかわった。戦争の生き証人である中国残留邦人一世の証言を聞き取り、世に残す作業にも取り組んだ。

当時は出所したばかりで、やはり無一文で移動するための交通費もありませんでした。出所した翌日から支援者でもあったある弁護士の法律事務所で働き始め、長年刑務所で生活していたため、なかなか娑婆の生活に慣れず、ご多分に漏れず、やりたいことがありすぎて、何でも手を付けてしまい、時間管理も健康管理もうまくできず、ダブルブッキングもすれば、歩きすぎて足をパンパンに腫らせて午後になると必ず２～３時間高熱を出すとう奇妙な症状に苦しめられていた。

その時に三鷹地域のホームレス支援団体に所属していた田中さんと知り合ったわけですが、なかなか変わった方で、誰に対しても低姿勢でホームレスたちと実に楽しそうに過ごし、そしてホームレス以上に貧乏に見えた。逮捕されるまでは犯罪成金で横柄な私にとって、田中さんのようにいきたいと思いました。そして田中さんに見習い、支援者のお宅の雑用をこなし、代わりに食事をいただいたり、一日除草したりして数千円をいただき、活動に参加するための交通費にした。

もっとも田中さんのように信念があったわけではなく、ただどうやったら自分が選んだこの初体験のボランティア活動というものを継続できるかを真似しただけでした。

田中さんは三鷹市にあるびよんどネットというホームレス支援の団体に所属していたわけですが、そこの活動趣旨に忠実ではなく、独自の活動方法を展開していた。例えばアルコール依存症やギャンブル依存症のようなホームレスや貧困生活者に対して、団体としてはその依存を絶対に絶たせる立場から、アルコールとギャンブルに一切触れさせようとしないわけですが、田中さんは節度を持って楽しめばよいという考えで、狭い１K の部屋にその人たちを入れ、週一のペースで楽しませていた。

その時は私も参加して、田中さん名義の銀行口座で公営ギャンブルの投票アプリを使い、ほかの人たちと同様、

一日千円未満で遊んだ。アルコールも実に少量で、それこそワンカップを二人で分けるような飲み方でした。

田中さんの過去は謎でした。聞けば話してくれるかもしれないが、聞く必要もなかった。いまのままの田中さんが好きで、それでよかった。それでも中高一貫の自由学園で講演したとき、殺人罪で無期刑を２回務めた（帰り無期）松永さん（故人）と、覚せい剤だけで９回も服役した靖男くん（今は13回目）、まったく前科も前歴もなかった田中さん、そしてトータルで２０年も施設生活を送った私の４人で全校生の前に立ち、だれが犯罪者に見えるかという遊びをやった時、田中さんが犯罪者に見え、殺人罪の松永さんが善人に見えたようで、全校生の７割はそのように反応した。ついでに言えば、刑務所もかなりおかしなもので、前科者の松永さんと私に対して文通を許可しても、前科の全くない田中代表が不許可になることが何度もあった。スタッフたちの見解は提示した運転免許証の顔写真が悪そうに見えるという。

PJ は私の出所の一年後に設立したわけですが、私が用意した５０万円の資金は一年も満たないうちに使い切ってしまい、それからはずっとバイトをしては年間 150 万円の活動資金を捻出し、電気ガスが止まると活動も止まる状態が３年以上も続きました。その時の常勤スタッフは生活保護受給者が３名と無職が３名でした。さらに見ず知らずの出所者と DV 被害女性を受け入れると、本当に食事にありつけない日が何日も続き、活動に専念するあまりに生活が完全に崩壊した。その時も田中さんがホームレス支援の物資を三鷹から江戸川区に電車で運び、その保存食の乾パンなどで持ちこたえた。石鹸もカミソリもタオルもホームレス支援のために寄付されたもので、服も寄付された古着でした。

その苦境を知った受刑中の会員からスニーカーをいただき、今もそれを忘れることができません。田中さんは食べ物を運び、そして帰りには必ず 5000 円ほどこっそり渡してくれた。用事で私が三鷹に行くと必ずガストでごちそうしてくれた。それなのに極悪の私が 5000 万円の新築の家に住み、何一つ犯罪をしなかった田中さんは逝ってしまった。

会員の中でも田中さんと文通していた人がいます。そして会報の「かえるのうた」の冒頭の短歌を楽しみにしている人もいます。

お通夜に参列された元と現役のホームレスたちと支援仲間たちを見てください。あなたの人生の前半を聞いてないけど、後半の人生はみんなに頼られ、みんなに好かれる、とても充実したものでした。PJ スタッフの間でも好かれるキャラの我が代表の田中さん。どうぞ安らかに眠ってください。

画　西原瑛子

田中さんの想い出

庄子佳代子

10 月 31 日、田中さんと仙川で会うことになっていました。でもそれは叶わず、26 日、田中さんは旅立ちました。

「最近の様子を聞かせてよ。」「会報はどうなってるの？」「汪さんは元気にしてる？」田中さんからそんな電話をもらうと、私たちは京王線仙川駅近くの珈琲館でデートを楽しみました。

私は「かえる」や汪さんの出来事、愚痴を喋りまくり、田中さんは「ほう～」といつも聞き役です。「ねぇ、汪さんたら喧嘩して、ガラスで手をめちゃ切って、お医者さんで縫ってもらうとき、麻酔をしないでくださいって言ったんだって。そしたら肉がピクピクして縫い難くてダメだって。そのときの動画見る？って言ってさ。」「しょうがねぇな～、そんなもの見たかないって言ってやれよ。」・・・そんな報告も。

田中さんは、オシャレでした。いつも気に入ったものをきちんと選んで身につけているのがわかりました、冬の黒いインバネスコートが素敵でした。ジーンズに羽織った作務衣も似合っていました。いつも何か帽子をかぶっていて、海賊風のバンダナキャップがかっこよかった。

活動していたびよんどネットが解散してからは、「びよんどくらぶ」と名付けた活動をご自分で続けておられ、路上生活の方達に自宅を開放し、シャワーと洗濯機を提供。かつてのびよんどネットの方達の協力も得て、おにぎりやパンを配る活動を続けておられました。関わっている一人一人の様子は、年に数回「びよんどくらぶお便り」を発行して、メール配信してくださいました。

私はこのお便りを読むのが楽しみでした。路上生活の方達の現況を短く淡々と綴った文章でしたが、田中さんの温かい眼差しと、控え目なお人柄がにじみ出ていて、ご自分の活動をひけらかさない抑制の効いた文に、私はいつも田中さんの「男らしさ」を感じていました。困難を抱える人達を見守る活動は、大変なことも多かったと推察しましたが、田中さんの文では、いつも静かに流れる、穏やかな風景が描かれていました。

一緒に内部会員の留守宅を訪ねたとき、「中で一口馬主をしている人もいるのよ。」というと「へぇ～、それは面白いね」と、目がキラっと光りました。「田中さん、競馬好きですか？」と聞くと「好きなんてもんじゃないよ。」って。私も馬券を買ってもらったことが

あります。「ビギナーズラックを祈るよ」と言ってくれたけど、見事に外れ、「私はちょっと儲かったからね」と珈琲を奢ってくれました。「今度は競馬場で会いましょう」との約束、楽しみにしていました。

私が一方的に喋るばかりで、田中さんご自身のことはあまり聞いたことがありませんでしたが、あるとき田中さんが昔所属していた劇団の公演を、私が観に行っていたことがわかり（もう50 年くらい前）、田中さんが演劇をやっていて、脚本を書いていたことがわかりました。「最近書いた脚本、今度読んでください。」と言ってくれたけど、それも叶いませんでした。

同年代の友人を亡くすのは寂しいものです。田中さん、また天国で会いましょうね。

2022/10/4 76 歳のお誕生日

受刑者とロゴセラピー

加害者とバイザイン

汪 楠

2022 年 1 月 22 日　特別レポート
テーマ　受刑者とロゴセラピー
サブタイトル　加害者とバイザイン

私は中国生まれの中国人で、父親の再婚で中国残留孤児 2 世として 14 歳の時に来日しました。いじめと差別を受け、抵抗していくうちに、暴力を暴力で返すようになり、被害者から加害者に代わっていき、非行少年から職業的に犯罪を行うヤクザとマフィアの二足の草鞋を履くような 10 代と 20 代を送ってきました。

28 歳の時に窃盗詐欺の罪で有期刑の最高刑である 15 年を求刑され、13 年の実刑判決を受け、岐阜刑務所で 42 歳になるまで服役していました。

受刑中にロゴゼミの長老である中島さんからフランクルの「夜と霧」を送られ、そのご縁でロゴセラピーと出会い、在監中に学び始め、出所後もロゴゼミに参加するようになりました。

ロゴセラピーを学び、私の生き方も変わりました。

刑務所にいるときから実践をはじめ、何人かの隠してきた過去を聞き出し、カウンセリング的なことを試みました。

2000 年に逮捕され、出所したのは 2014 年でした。それまでの人生を否定するのではなく、自分の過去を生かせることはできないかと考え、法律事務所に勤めながらボランティア活動をはじめ、そして 1 年後に発起人になって

「ほんにかえるプロジェクト」という受刑者の更生を支援する団体を設立し、今も活動を継続しています。

では本日のテーマに移りたいと思います。

私の父は中国で有名な医者でした。私自身も賢い子供と褒められて育ちました。それが親の都合で来日すると日本語がわからないことから学校の授業についていけなくなり、天才と呼ばれてきたのにバカといわれるようになりました。さらに中国人であることに誇りも感じなければ、そもそも国籍を意識する年ごろでもなかったのですが、おい！中国人と呼ばれるようになり、チャンコロやチュンと呼ばれるようになった。ここで初めてマイノリティとしての経験をし、存在そのものを否定されるようになった。

学校内の人種差別は言葉だけではなく、突き飛ばされたり、蹴とばされることもしばしばでした。我慢しても状況は変わらず、いつしかやられたらやり返すようになって、事情を話すだけの言語力もなかったし、聞いてくれる先生もいなかった。喧嘩両成敗で被害者である自分まで廊下に立たされると先生に対しての不信感も募り、私たち中国から来た中国残留孤児２世は社会そのものに対して敵意を持つようになった。それで校内でいじめに遭うと暴力で抵抗した。ほかの学校でいじめを受けた残留孤児２世を助けに行くのは正義と考え、遠征と称して都内全域の中高学校にいる２世を助けに行きました。戦う相手は主にヤンキーと呼ばれた暴走族であったことから、自分たちも急激にヤンキー化していき、シンナーを吸うようになり、盗んだバイクで暴走行為もするようになった。その果ては「怒羅権」というグループを作り、職業的にいろんな犯罪に手を染めるようになった。

気づいたら、中国人として存在を否定されるだけではなく、犯罪者としても社会から否定される存在になっていた。

私のような外国籍の人だけではなく、罪を犯して刑務所で服役していると、自他から存在そのものが否定されがちである。これとは別にもう一つの共通点として家庭環境という問題があり、いわゆる愛着障害を持つ受刑者が大変多いのです。自他が確立する年齢に特に母親から愛されなかったり、愛されても感じ取ることができなかったりすると、他者と安心して付き合うことができません。他人が自分に対して敵意を持っているのではないかと感じ、その末、裏切られて傷つくなら先に裏切てしまうような行動をとる人もいて、結果的にコミュニティから孤立してしまう。

公務中の殉職の際にひつぎに国旗をかけることがあります。実は日本では受刑者が獄死すると火葬までのわずかの時間でも棺の上にあの手錠を置かれるのです。私にはものすごく違和感を感じ、獄中にフランクルの精神次元を知った時には、明日は我が身のように、自分もそして目の前でもうすぐ獄死する老いた無期懲役囚を救わねばと思いました。

罪を犯した行為を否定するべきであるところ、人間そのもの、あるいは魂―精神次元まで否定されることが多い。

自分自身は救われたい、そして他人をも救いたい。そう考えたとき、犯罪者として死ぬのではないようにするためには、己の人生を意味あるものに変えていく必要があります。

そこで考えるべきなのはロゴセラピーのいう生きる意味である。

犯罪者は社会からも家族からもそして自分自身からも反省と更生を求められる。でも再犯率が５５％という数字からも更生は難しい現状を知ることができる。法務省矯正局のホームページですら「反省は一人でできても、更生は一人ではできない」と書かれている。社会の理解と助けが必要である。受刑者の多くは自分がまた犯罪をするのではないかと不安に思い、恐れるあまりにそうなってしまう。そこで取り入れたのは「逆説志向」である。一つは犯罪者だから更生してもう一度社会に許してもらい受け入れてもらわなければならないという常識な発想から、自分に対して理不尽な扱いをしてきた社会という考えを捨て、よい人もいると思うようにして社会をむしろ許そうではないかと提案する。この作業によって反社会性を薄めていく。もう一つは再犯してしまわないかという不安に対して、むしろ環境的に感じるその圧力を逆手に取り、刑務所を出たらもっとうまく犯罪ができるように法律や技術の知識を学び、犯罪者としてのスキルを上げることで自分自身に自信をつける。その上でロゴセラピーでいう「態度の自由」という考え方で、再犯は選択肢の一つとして保留するけど、人ができないこともできる自分がいるから違う職業も人生もチャレンジできるという考え方にシフトしていき、結果的に選択肢を増やし、再犯する道を矮小化して新しい生き方を身に着けることができる。

また勝田先生からはクライアントに感情移入してはいけない、その悩みもクライアントの財産である、というようなことを教えられた。

そこで私は更生支援団体である「ほんにかえるプロジェクト」を立ち上げるときにこの２点を強く意識した。本日のテーマでもあるバイザインを基本とし、更生しなさいと言わない。でもともに人生を考える。受刑者とかかわるときに私は当事者目線で接するようにしていますので、基本的に説教じみたことを言いません。公式の会報である「かえるのうた」は部外者も見るものですので、丁寧な言葉で書くしかありませんが、そういうきれごとをいう自分が嫌で、チンピラ言葉で「わんレター」というのを出している。そこでは横柄に受刑者会員に「俺を局長様とお呼び」に始まり、タメロでいろいろなあるあるを書いています。更生に関しても、お前らの更生なんか俺にとってはどうでもいいことで、死のうか生きようか、俺の知ったことじゃないとまで書いたことがあります。学校の先生の言うことを聞かず、家で家族の言うことも聞かず、ある意味好き勝手にやってきたのは俺ら。見ず知らずのわけのわからないボランティア団体の、

見たこともない一スタッフの一言二言で人生が変わるはずがないとうそぶくこともある。これに対して多くの受刑者はむしろ好感を持ち、そうだよね、局長様の言うとおりだよね、もっと親身になってくれていた学校の先生や、泣いてくれた親、ボロボロになるまで支えてくれた彼女を思うと、それでも真面目になれなかった自分が情けないというような意見が多かった。

ここに私たちの活動の成果を見出すことができる。受刑者はここで他人に対して感謝の気持ちを表すようになったのです。実は更生の第一歩は他人に対して怒り不満ではなく、感謝の意を持つことでコミュニケーションが始まるのです。

更生したい、更生する意思があるので支援してください。ご立派な活動に感銘を受けましたという文面で始まる受刑者からの手紙、その真意はただで本をもらいたいだけであることが多い。しかし会報を通じて、あるいはスタッフと文通することで緩いつながりができ、それが楽しみとなっていく。じつは刑務所内でも規律違反をするとさらに隔離されるわけで、そうすると手紙も郵送される書籍も受け取ることができません。手紙と本が楽しみになってくると、それを失いたくないから行動を律するようになり、書籍を読むことで知識を、人生に対しての希望も湧くのです。

これが私たちが実践しているバイザインである。

注）バイザイン：Bei-sein　共に在る

このコーナーは受刑者からの手紙を紹介してきましたが、新しい試みとして文通ボランティアスタッフとの手紙のやり取りも掲載してみたいと思います。

ＴとＳの手紙

ＳからＴへ

お手紙に「男とは家族を養い守ることと仕事」と書いていたけど、私はそのようには思いません。私はかつて夫の倍以上給料を得ていました。でもそれはたまたまそうなっただけで、二人で食べていけるお金があれば、どちらが稼ごうがどうでもよいことです。私はそのことで夫に対する尊敬が揺らいだことはありません。汪さんだって、就労ビザが無いので働けません。正業に就くことはありません。でも奥さんは汪さんを尊敬し、生涯養いたいと言います。人間の価値はそんなところにあるとは思いません。ただ生きていればそれだけで尊いと、私は思います。「男を捨てない」なんて！笑っちゃいます。男ってそんなことにしがみついて、バカだな～と思う。世界は「男性」「女性」の区別に拘らない方向に向かっています。ジェンダーに縛られない生き方がしたいです。

ＴからＳへ

「男は仕事、家族を養い守る」という言葉の真意。

これは私に仕事を叩き込んだ師の言

葉です。府中刑務所を出て右も左も分からぬ私に一から仕事のなんたるかを教えてくれました。金額の大小は問わず、己のすべてを注ぎ込む姿勢、心意気、矜持、そういったものが含まれた、とても重い、大切な言葉です。

この言葉で職人を極め、再起し、再犯せず20年近く職人として、社長として生き、家族を持ち、守れた事は今も私の誇りだし、唯一の自信です。社会で胸を張って正業を営むことそこが大切なのです。給与を得なくても、主夫でもいい、何かひとつ胸を張る事という意味です。少しは想いが伝わったでしょうか？

ＳからＴへ

Ｔくんは「自分は刑務所の暮らしが合わない」というけど、誰にとっても合うことがないようにしているのが刑務所ではありませんか？「こんな嫌なところは２度とご免」という気持ちにさせることで、再犯防止に繋がると考えているのでしょう。そうでもありませんけどね。

私が文通している無期の人で、一人だけ絶対出たくないと言っている人もいます。歳を取って放り出されても生きていけない。刑務所は衣食住保障されていて安心だし、外には出たくないと。でもきっとそのような気持ちは誰にでもあり、一方で出たい気持ちもあり、葛藤するのでしょう。昨年、出所後かえるの事務局で寝泊まりしていた人も、一人で生活保護で暮らすのも辛く、「3食食わせてもらえるところは無いかな～」と言っていました。私たちは「刑務所しかないよね～」と思っていましたが、あっという間に極少量の覚醒剤を入手して発覚、戻りました。

昨年もう一人出所した人も、汪さんはアパートを準備して待ちましたが来なくて、1ヶ月もしないうちに再犯しました。切ないけど、その方達はまだ更生する時期ではなかったと思うしかありません。またいつか更生できるときがきたら支援するよ、と汪さんは言います。

ＴからＳへ

「刑務所は私に合わない」

刑務所は合わないの真意です。

私は模範囚にはなれないし、なる気もありません。自分で考え行動します。今の制度にも対応にも前例主義にも不服しかありません。合わないのは同囚に対してです。刑務所自体はぬるま湯です。三食衣食住付き、命令で動く。こんな生活は人をダメにします。指示されなければ動けない思考力ゼロの人間を社会に出す再犯養成所です。悪い奴と知り合い、余計悪くなって出て行く・・・。それに刑務所は未だ閉鎖的でパワハラ、モラハラの温床です。社会の常識は刑務所の非常識。そんな所に反吐が出ます。やり切れない・・・それが本音です。矯正とは強制。どれだけ真剣に更生を考えてくれている職員がいるでしょう？甚だ疑問です。本当バカらしい。言い過ぎかな？これが刑務所は合わないの真意です。二度と来ない。人生にそんな無駄な時間はもうないです。

編集随記　汪 楠

この手紙のやり取りを見て、自分の刑務所生活を思い出す。刑務所が合わないというところで思い出したのはメンタル面で不調の時、医務室に行きました。その移動中に連行の刑務官にどこが悪いの？と聞かれ、頭がおかしくなってきたよと馴染みの刑務官にこたえると、その人はしみじみとした口調で、「こんなところで頭がおかしくならないほうが頭おかしいよ」と言った。続いで日本の刑務所はどこも同じ、お前達は同囚同士との人間関係でストレスを感じ、辛い思いをいっぱいしているとよく聞くけど、俺から見ればその多くは我々刑務官がそうさせているわけで、公務員の刑務官が直接暴力を働けないから、間接的に暴力を振るわせるのは刑務所のやり方。お前もそこに気づいて反抗してきただろう？

それを聞いて俺は笑った。オヤジ、あんたはまともだから現場から外されたんだろう？俺は犯罪という道を選んで失敗したけど、あんたは刑務官という道を選んで失敗したねと。

「男」、この言葉は受刑者が大好きだね。でも男の人ほど女々しい生き物はない。女性と別れるとき、未練たらたらになるのはいつも男のほう。刑務所でも俺は男だと公言している奴ほどせこいことをしている者はいないと俺は思う。

会員 No. A059　　O.S さん

「家　出 」

私が小学４年の夏休みのある日、突如、母の姿が消えた悲しい、辛い出来事が起きた夏休みが終わり、二学期。

小学１年の妹と登校中のある日、妹から、

「にいちゃん　かあちゃん　どこにいったの」

「にいちゃんも　しんない　ようはしらんけど　たぶん　大阪だと思う」

「フーン　おおさか　おおさかってとおいいの」

「そうだなァ　とおいいなァ　汽車に乗って　５時間も６時間もかかると思う」

「フーン　そんなに　とおいいの」

「とおいいなァ」

「にいちゃん　……　てるこ　……かあちゃんに　あいたいの」

「そうか　あいたいか　……　にいちゃんかて　あいたい」

「てるこ　かあちゃんに　あいたいの」と泣き出した。

母に会いたい、母が恋しい、我慢の糸がプツンと切れる。

「そうだなァ　てるこ　大阪に行って　みるか」

「ウン　いこう　てるこ　おおさかに　いきたい」

「そうだなァ　大阪に　行くか」

「うん　いこう　いこう」

と登校は回れ右、岡山駅に向かう。

私と妹は岡山駅に。当然のこと、お金は持っていませんから、駅近くの踏切りから線路づたいに、ホームに上がり、大阪行きの汽車に乗り込んだ。

が、母の住所は知らない。

ただ、大阪には、実母の兄（山田義春）、伯父さんが、天満駅商店街（天神橋商店街）の食堂で、すし職人として働いている。が、食堂の店名は知らない。

また、実母の弟（山田光男）、叔父さんが、片町駅近く、京阪電車線路ぞいに住んでいて、理化学加工所で働いている。が住所は知らない。

これらのことを、私は、何故か覚えていて、漠然と大阪に行けば、実母に会うことができると思っていた。暴走行為であります。

私達兄妹が汽車に乗って暫くして、乗車券拝見の車掌に咎められ、次の駅から岡山に送り返されることになった。

が、向かいの座席にいた若い夫婦の主人から、

「可哀想に　車掌さん　大阪まで連れて行かれたらどうですか　この子たちの乗車賃　私が払っても　いいですよ」

と、助言により、無事に大阪駅駅長室に。駅長さんの懸命な厚意の捜索によって、天満駅商店街の食堂で働いている義春伯父さんを捜してくださり連絡、夕方迎えに来ていただきました。

私達兄妹は、朝、家を出て、夕方、義春伯父さんが迎えにくるまでの間、向かい座席の若夫婦からいただいたみかんと、駅長さんから、蒸したさつまいもの美味しかったことは、忘れることはできません。

隣人のことすら分からないことの多い、核家族の現代では、先ず、伯父さんの捜索は難しかったと思います。

当時（昭和２４年）の大家族制度の人情感覚の違いが幸運だったと思います。

翌日の昼ごろ、義春伯父さんから連絡を受けた、実母と私達兄妹は涙の再会となりました。

しかし、一週間位して、岡山から父が迎えに来た。私達は「いやだ」とだだをこねるが、実母は料理店で住み込み中居として働いていて、私達を育てる力が足りなかった。

苦悶の表情、父は困惑し「学校が休みになったら会わせてやる」と私達を宥め賺し、私達は泣き泣き、帰りました。

（つづく）

会員№. **A138**　　**S.A.さん**

（中略）話は変わるのですが、先日読んだ本があり、その中でとても感動した話があったので、ぜひ紹介したいので今回その話を書かせてもらいます。

本のタイトルは **「大切なことに気づかせてくれる３３の物語と９０の名言」**で、その中にある

「パパの時給はいくら？忙しくても忘れてはいけないモノ」(ある女優さんがブログで紹介していた、仕事に疲れたアメリカ人の父とその息子の話)という内容の話です。

…では、この話の内容を書きます。

息子「パパ、１つ聞いてもいい？」

パパ「なんだい？」

息子「パパの時給はいくらなの？」

パパ「(突然、何を言い出すんだこの子は！）どうしてそんな事を聞くんだい？」

息子「なんでもいいから教えてよ。パパの時給はいくらなの？」

パパ「そんなに知りたいなら…１００ドルくらいかな」

息子「えっ！？」

それを聞いてうつむく息子…

息子「(言いにくそうに) ねぇパパ。５０ドル貸してくれない？」

パパ「何だって？何か買いたいオモチャがあるのか？パパはくだらないオモチャを買うために働いているんじゃないんだぞ！今すぐベッドに入って反省しなさい！」

パパの言葉を聞いた、息子は静かに自分の部屋へ向かいドアを閉めました。

１人残ったパパが息子のぶしつけな質問についカッとなってしまいましたが、だんだんと冷静になってきました。お金を借りたいなんて、あの子らしくないな…

いつも仕事が忙しくて、普段はほとんどかまってやる事ができていません。そう思うと、ちょっと反省しながら息子の部屋のドアを開けました。

パパ「起きてるかい？」

息子「うん。」

パパ「さっきはキツイことを言ってすまなかった。ほら５０ドルあるよ。」

…それを聞いた息子は、笑顔で跳ね起きました。

息子「ありがとうパパ！」

…そう言うと、息子は机の下からお札を出して数を数え始めたのです。それを見たパパは腹を立てながら聞きました。

パパ「どうしてそんなにお金を持っているのに５０ドル貸してなんて言ったんだ？」

息子「だって、足りなかったんだよ。」

パパ「？」

息子「でも、もう大丈夫！パパ、ここに１００ドルあるよ。パパの１時間分。これをあげるから、明日は１時間早く帰ってきて。晩ご飯を一緒に食べようよ！」

…パパはその言葉に打ちのめされました。そして、息子を、思い切り抱きしめたのです。

…最後に作者？からのメッセージが添えられています。

≪がむしゃらに働き続けているあなたへ。

時間は私たちの指の隙間からこぼれ落ちていきます。

愛する人との時間は１００ドルで買えますか？あなたがもし、明日死んでも会社には代わりになる人がいます。でも最愛の人、家族や友人は残りの人生を「あなたを失った悲しみ」と共に生きる事になるでしょう。

その事を思えばもっと家族との時間を大事にできるかも知れませんね。人生には仕事よりももっと大切な事があるのです。≫

長々と書いてしまいました。すいません。何度読んでも胸が熱くなります。

私には子供は多分ですがいません。今は相手もいません。ですが、両親、家族、友人はいます。

その大切な人達との時間を自分で無くしてしまいました。

自分の人生も相手の人生も限られているので、出所したら自分周りの大切な人との時間を大切にできる生活をすると心に誓いました。

ブックレビュー

会員№. **A140　ザキさん**

私の１番のお気に入りは、吉田修一の「横道世之介」です。

大学に入学した、この変な名前の田舎育ちの男の子が、東京に出て来て大人になって行く成長話なのですが、出て来るキャラが皆、魅力的なんです。同名の映画もおすすめですが、まずは小説から。本屋大賞第３位にも選ばれた作品です。

そして映画の話。いきなりかい！

私が邦画で好きなのが

・桐島、部活やめるってよ
　　監督　吉田大作

・パーマネントのばら
　　監督　吉田大作

・ひゃくはち　　監督　吉田大作

「ひゃくはち」は高校野球の話で、補欠でしかも背番号が１８～２０。ギリギリ番号もらえるか、もらえなくてベンチにも入れないか。って言う子達の話。外にいた時は、夏になると必ず１回は見ていた作品。　もし、野球が少しでも好きなら、ぜひ。

「桐島、部活～」は、多少話題になった作品なので、題名ぐらいは聞いた事あるかも。高校生の校内ヒエラルキーの話。ピラミッドの頂点にいる桐島

が、いなくなる事によって起こる各人の心の動き、自分の教室での立ち位置の変化。私の時代にも、もちろん佳代姉の時代にもあったはずの教室での空気感が伝わって来ます。

「パーマネントのばら」は、生きる事、正しい事って何ですか？って考えさせられる作品。

原作は、西原理恵子。私も佳代姉も大好きなゲッツ板谷の師であります。この作品を知ってから、彼女を見る目が変わりました。

韓国映画から２作品

・チェイサー（ミステリー）

・悲しき獣（人間ドラマ）

邦画よりも進んでるな～って感心させられちゃいました。歌、アイドル、ドラマなどエンタメに関しては韓国の方が１歩も２歩も先に行ってる感じがします。 邦画よりもまず、こちらの作品をどうぞ。

洋画で私の１番は、ブラッドＰの「リバーランズ　スルーイット」人種差別を扱った作品だったと思うのですが、忘れました（笑）。とにかく、主人公が川でフライフィッシングする所がめっちゃキレイなんです。それだけでもずっと見てられます。うまく伝えられません（笑）。

ブックレビュー

会員№. **A004　S.M.さん**

第一位

「炎立つ　1～5 巻」　髙橋克彦　講談社文庫

男の真価を問う物語で、時には己を意志で貫き、又敵を赦す器の大きさ、この物語の男の生き様に感動しました。ぜひ若い方にこの本を手に取って欲しいと思いました。

第二位

「蜩（ひぐらし）」の記　葉室麟　祥伝社文庫

十年後の切腹を約束された武士が歩む日々、十年後命を断つとわかっていながら、家族とどう向き合うのか。それでも凜とした男の生き方、信念を貫く。

第三位

「冬の童話」　白川 道　ポプラ社

一人の女性の夢を手助けする男。病魔に蝕まれながらも彼女の夢のために・・・超純愛小説。

第四位

「潮鳴り」　葉室麟　祥伝社文庫

どん底まで落ちた男が、己の生き方を反省しながら再生をしていく。

全てとても素晴らしい本で、一人でも多くの人に読んで頂き、男としての矜持を持った生き方、誰かのために生きる人生を送っていただけたら嬉しく思います。

ブックレビュー

会員 No. **A140　ザキさん**

私は青春もの、学園ものが好きです。

読んだ本を BEST10 にしてみました。

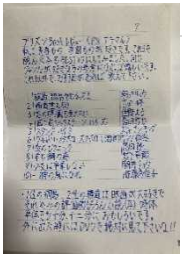
同じジャンルが好きな方の参考になれば嬉しいです。これ以外でおすすめがあれば教えて下さい。

1. 桐島、部活やめるってよ / 朝井リョウ
2. 横道世之助 / 吉田修
3. 君の膵臓を食べたい / 吉野よる
4. 武士道シックスティーン(シリーズ) / 誉田哲也
5. スタンドバイミー / スティーブン・キング
6. ワルボロ・メタボロ・ズタボロ(3部作) / ゲッツ板谷
7. 夜のピクニック / 恩田陸
8. 羊と鋼の森 / 宮下奈都
9. 少女は卒業しない / 朝井リョウ
10. 一瞬の風になれ / 佐藤多佳子

1 位の桐島、2 位の横道は映画が大好きでそれ込みの評価(笑)

ブックレビュー

会員 No. **A140　ザキさん**



私がおすすめしたいのが辻村深月です。2018 年の本屋大賞にも輝いた「かがみの孤城」は皆さん知っていると思いますが(私的にも 100 点の作品です)その他の作品も読んでもらいたい。どのキャラも個性的で素的です。

作品同士のつながりに感動してもらう為にも、以下の順番で読むことをおすすめします。より楽しめます。

「凍りのくじら」

辻村ワールド導入編。切なくて苦しくてでも読後は、幸せであたたかい気持ちになれます。

切ない度★★★　優しさ度★★★

「スロウハイツの神様」

ドキドキハラハラする展開、そして何より、あたたかく優しすぎる愛情。

愛情度★★★　心に残る度★★★

「冷たい校舎の時は止まる」

読みごたえ抜群の本格ミステリー。厚い、上下本ですが先が気になってしまい気付けば読み終わっています。

ミステリー度★★★ドキドキ度★★★

「子どもたちは夜と遊ぶ」

恋愛要素が絡んでくるミステリー。みんなとても良いキャラだから、すご

く感情移入してしまって物語が終わるのがとてもさびしくなります。又、どこかで会えるかも？

切ない度★★★ミステリー度★★★

「ぼくのメジャースプーン」

「子どもたちは夜と遊ぶ」の謎を解くことになる話。

考えさせられる度★★★

泣ける度★★★

「名前探しの放課後」

この順で読むと５割増しで楽しめます。きっと「あっ」と言わされるでしょう。

愛情度★★★

どんでん返し度★★★

「ロードムービー」

必ず読んでほしい珠玉の短編集。青春時代の大切な何かを思い出させてくれます。

歓喜度★★★　　心に残る度★★★

「光待つ場所へ」

なつかしい面々に会える短編集。

歓喜度★★★　成長度★★★

「冷たい校舎の時は止まる」上下（講談社文庫）

編集随記

いいですね、このようにそれぞれが読まれている本の内容も教えてくれるの。私もノートに読書感想文のようなメモを残すタイプでしたが、ほかの人たちも書き残すものがいた。もしそのようなノートを手放してもよいと考えている人がいたら、ぜひPJに譲ってください。折を見て掲載させていただきます。

PJは読書を推奨していますが、そもそもなぜ本を読む必要があるかを考えますと、これは社会に暮らす普通の人にもいるのは読書を通じて私たちいろいろ知識を得、学べるからです。さらに刑務所という特別な環境においては、広義的に言いますと受刑生活が有意義なものになりうる可能性があります。狭義的に言いますと、読書をしている間にほかの受刑者としゃべらずに済み、それだけトラブルに巻き込まれずに済む。口は禍の元と言いますが、刑務所ほどこの言葉にピッタリな空間はない。何でもあら捜しのネタにされ、良かった一面を話すと妬みを買うし、よくなかった面を話すとバカにされる。

2021年度決算報告　2022/9/30

＜収入＞

前年度繰り越し	737,985
購入代行寄付	572,999
内部会員会費	149,000
寄付（外部会員会費・寄付）	329,700
寄付（ホームページ経由）	240,768
本と切手の販売	20,500
合　計	2,050,952

＜支出＞

事務局家賃	360,000
事務局光熱・水道費	97,349
事務局火災保険	49,220
通信費（ネット回線使用料を含む）	364,859
印刷費	148,214
事務機器購入	111,275
支払手数料	47,862
事務消耗品	57,105
雑費	2,220
ﾌﾟﾘｽﾞﾝﾗｲﾀｰｽﾞ原稿料・募金	40,236
出所者支援	50,000
預かり金切手買い取り	76,853
小　計	1,405,193
次年度繰り越し	645,759
合　計	2,050,952

編集後記

大変ご無沙汰の事務局長です。入会待ちの人数が 100 人に達するほど PJ は受刑者に大人気の団体になりましたが、その一方では再犯してまた刑務所に戻りましたという知らせも受けています。皆さんと面識がなくても文通で多少のことを知っている者としてはやはりさびしさを感じます。

PJ は更生支援団体です。やはり更生してほしいと切に願う。その一方で元受刑者としては皆さんの生きづらさも理解しているつもりです。私もそうでしたが、まともに働いた経験がなく、出所してまじめに働きたくても、その生活になかなかなじまず、どうしても挫折してしまいます。私は出所して 8 年になりますが、やはり挫折しそうになったことがあります。それを振り返ると、直接の原因はやはり金銭で、生活費に困ると犯罪ならお手のものと考えてしまいます。

そこで抑止力になったのは家族や知人の助けはもちろんありますが、もっと大きかったのは困っていることを周りに知らせることで、思わぬ助けを得られるところです。受刑生活もそうです。辛いときは誰かに話す。助けてもらえないだろうと思わず、まずは話すことです。話さないとなかなか困っているとわからないものです。

私はとにかく人助けをする。見返りを求めない。聖人君子だからではない。私はこの世の中に助け合いというものを増えてほしい。そしていつか自分がまた困ったときに、きっと助けてもらえる社会になってほしい。

外部会員募集

正会員の年会費は 3000 円。
寄付もお待ちしています。
振込先
ゆうちょ銀行 10160-86239211
他行からの場合
ゆうちょ銀行〇一八支店
（普）8623921
口座名義は
ほんにかえるプロジェクト

ボランティアスタッフ募集

在宅のままでもできる検索(パソコン入力)と文通スタッフが特に不足しています。自宅の住所を公開する必要もありません。プライバシー保護に細心の注意を払っております。

汪楠の著書

「我的童年」（私の生い立ち）
（A5 サイズ 88 頁）500 円
「獄中書簡集」
（A5 サイズ 82 頁）500 円

また彩図社より出版「怒羅権と私」は 5 万冊も売れたようです。一部の刑務所では検閲により閲読できないようで、購入の際はご注意ください。

2 冊目も書きあがり編集途中です。乞うご期待。

発行所
〒134-0003 東京都江戸川区
春江町 5-15-31
ほんにかえるプロジェクト事務局
電話　080-8811-5465

誕生日カードをお贈りしました

誕生カード担当　M.ロザリア綾

「地の果てまですべての人は　わたしたちの神の救いの御業を見た」
(詩編 98 章 3 節)

皆様、お元気でいらっしゃいますか？　町のあちこちに、クリスマスツリーやリースなどの飾りが見られるようになりました。もうすぐ、クリスマス。そして新年がやってきますね。

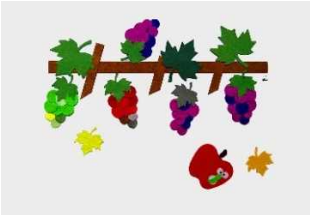
色々とご苦労がおありと思いますが、皆様が心穏やかに、良いクリスマスと新年をお迎えできますように祈っています。

5 月からの誕生カードは写真の通りです。2022 年は全部で 117 名の方々にカードを送ることができました。受け取ってくださった方、作ってくださった方、書いてくださった方…に感謝申し上げます。2023 年もよろしくお願いいたします。

お贈りしたカード

5．6 月

7．8 月



9．10 月

11 月

12 月